

コロナ禍における大学キャンパス利用者実態調査 2020 報告 概要版 11/26. ver

調査目的：

新型コロナウイルスの影響により、2020年度4月から授業や研究をリモートなどで行う大学が増え、全国の大学キャンパスはほとんど閉鎖状態になり、数ヶ月間通学できないという異常な事態が起きました。その状況下において、特に、通学が当たり前であった学生にとって、大学キャンパスに対する意識は大きい変化を起していることが想定されます。大学キャンパスはこれまで、教育・研究活動を支える環境として、また同時に、学生の居場所であり学生と教職員、来訪者との交流の場として整備が進められてきました。

本調査では、キャンパスを利用する学生は、キャンパスを重要な空間として認識しているのかどうか、その意識をコロナ禍前・コロナ禍期間中で把握し、今後のキャンパス計画を考えていく視点を抽出することを目的としました。

企画実施：日本建築学会 都市計画委員会 キャンパス・リビングラボラトリ小委員会

調査協力：小委員会委員の各所属大学等（17大学）

調査期間：2020.08.12～2020.10.04

実施方法：Google フォームによる web アンケート調査

有効回答：6,789件

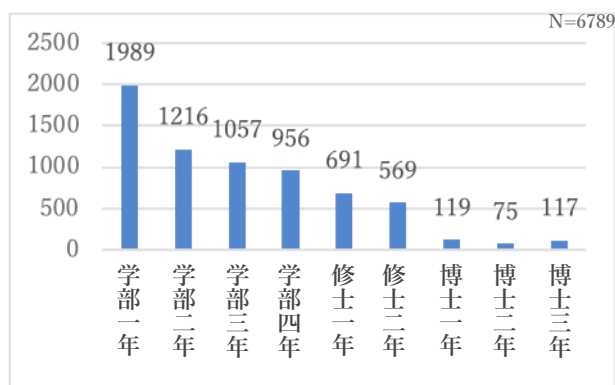
調査票作成：小篠（北大/小委主査）、吉岡（阪大）、太幡（名大）、池内（阪大）、斎尾（東工大）

集計分析：斎尾・前本・三溝（東工大）

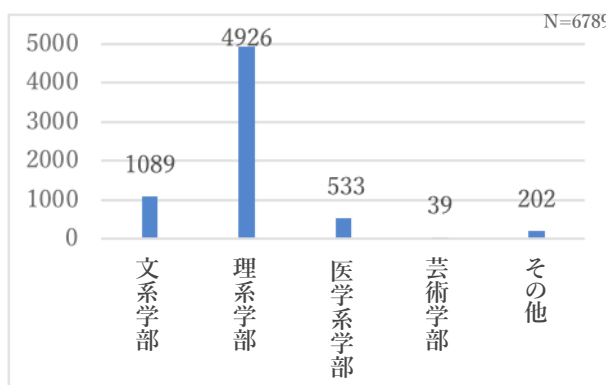
<回答者属性>

■ 学年

（学部1年はキャンパス通学ほぼ無し）

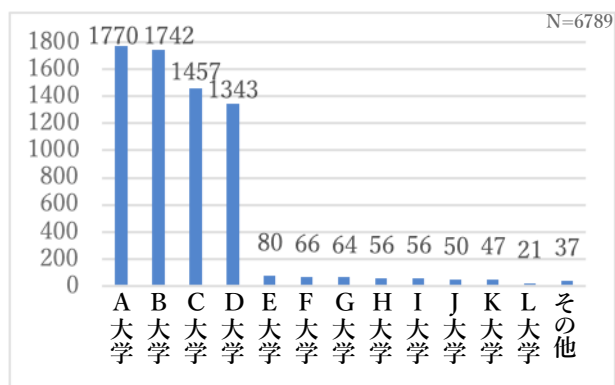


■ 所属学部



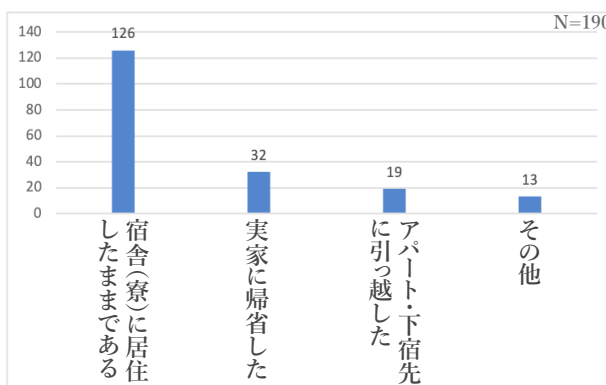
■ 大学

（その他：回答数20以下の大学合計）



■ 学生寮に住む学生の状況

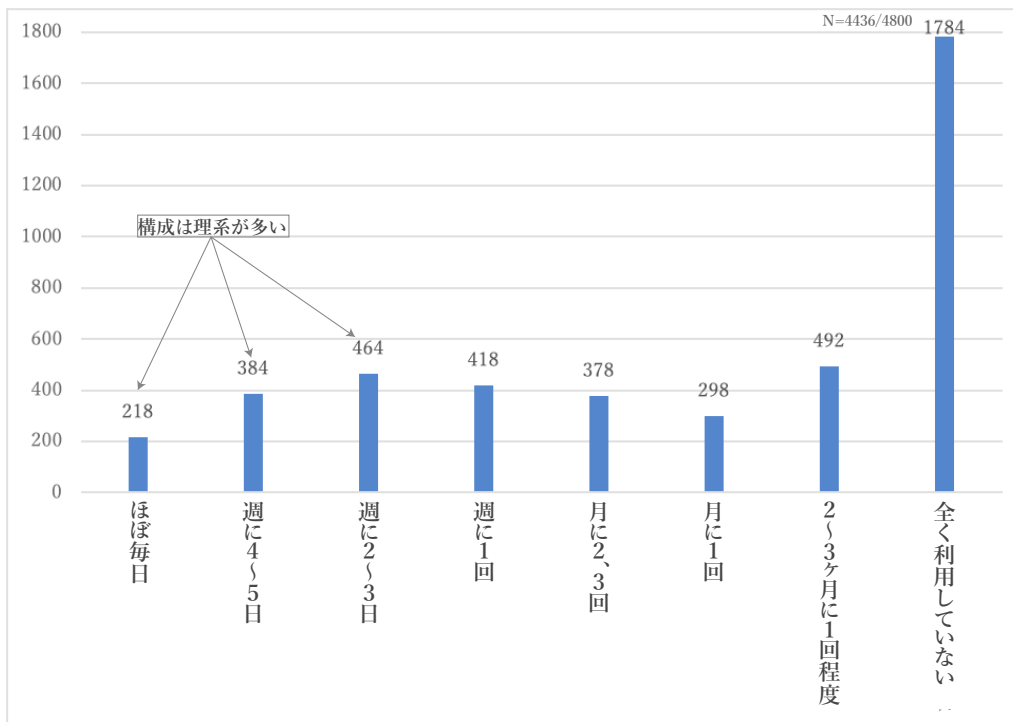
（コロナ自粛前に学生寮に住んでいた学生対象）→3割以上退寮



※以降、キャンパスに登校経験のある学部2年以上（N=4800）を中心に集計

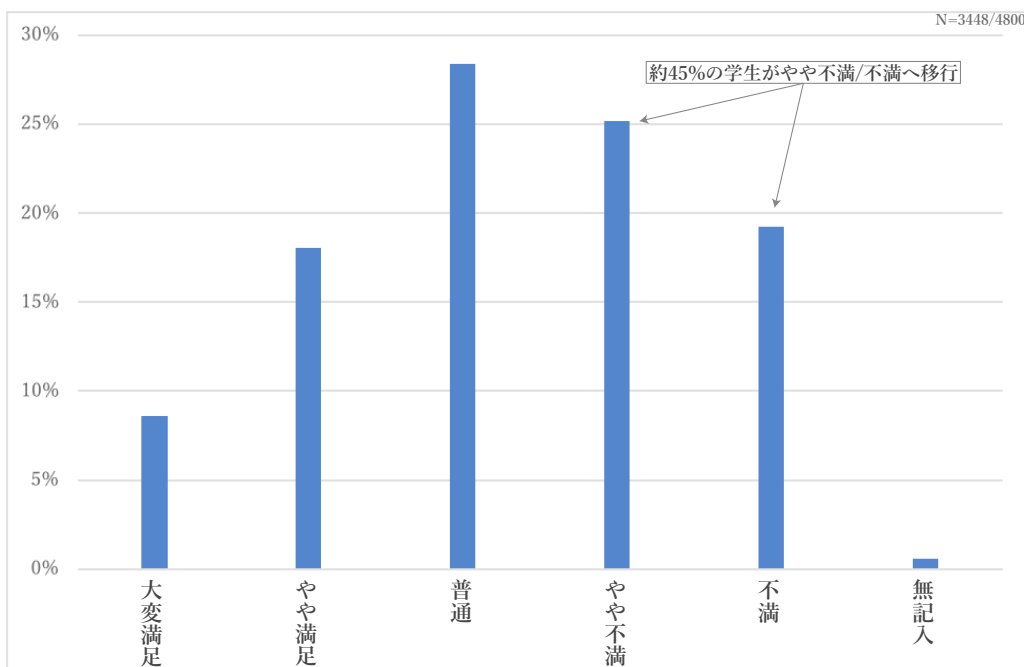
■ キャンパスの利用頻度

コロナ自粛前「ほぼ毎日/週に4~5日」通学していた学生の、自粛期間中の通学状況
 →週に4-5日以上通学していた学生のほとんどは0日に



■ キャンパスの満足度

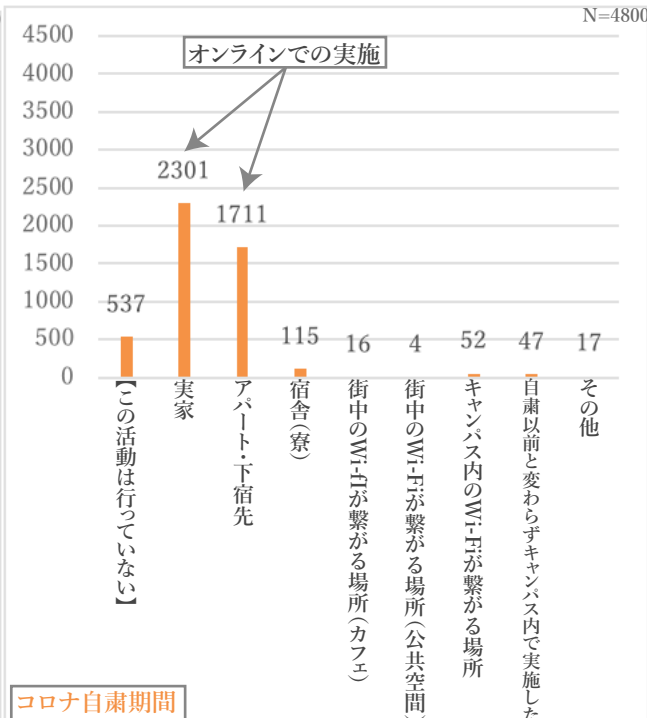
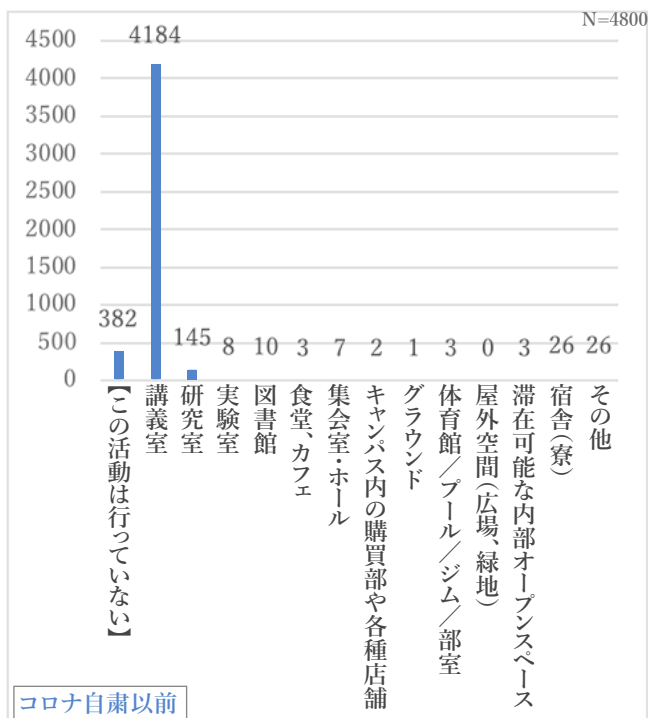
コロナ自粛以前:「大変満足/やや満足」と回答した学生の、自粛期間中の満足度
 →自粛前:「やや満足」「大変満足」が、自粛期間「普通」「やや不満」「不満」に移行



- コロナ自粛以前に大学キャンパスで行なっていた活動内容×その活動場所 (左図)
- コロナ自粛期間中の活動有無と場所 (右図)

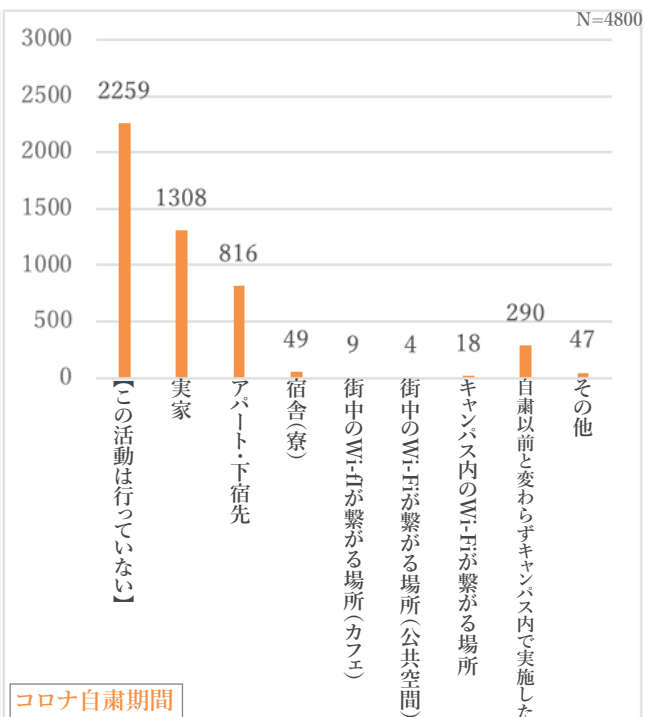
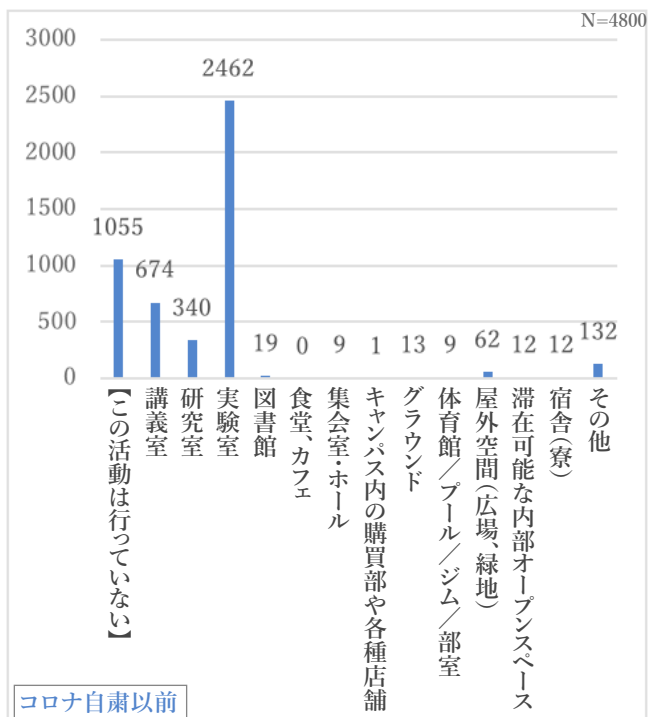
1) 「授業を受ける」

→実家、アパート・下宿でオンライン



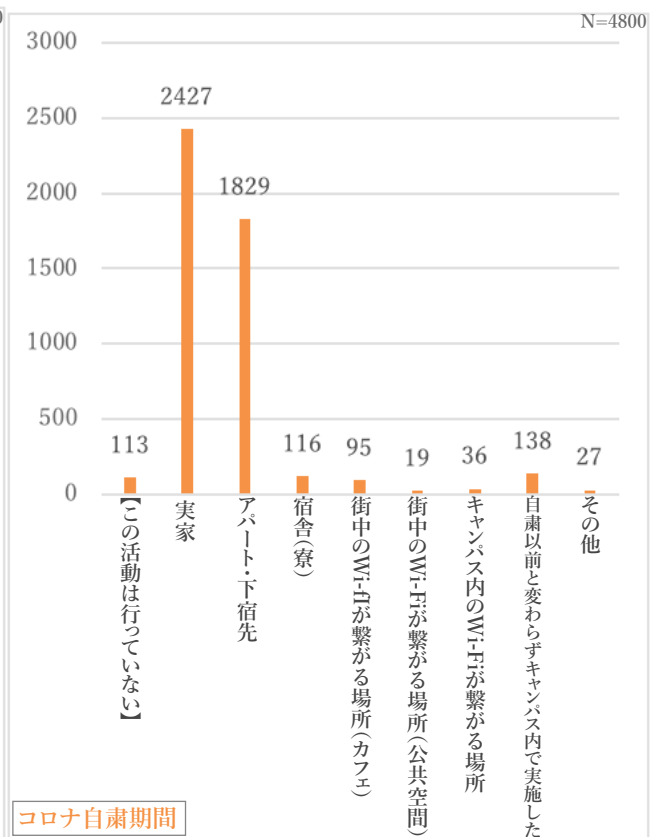
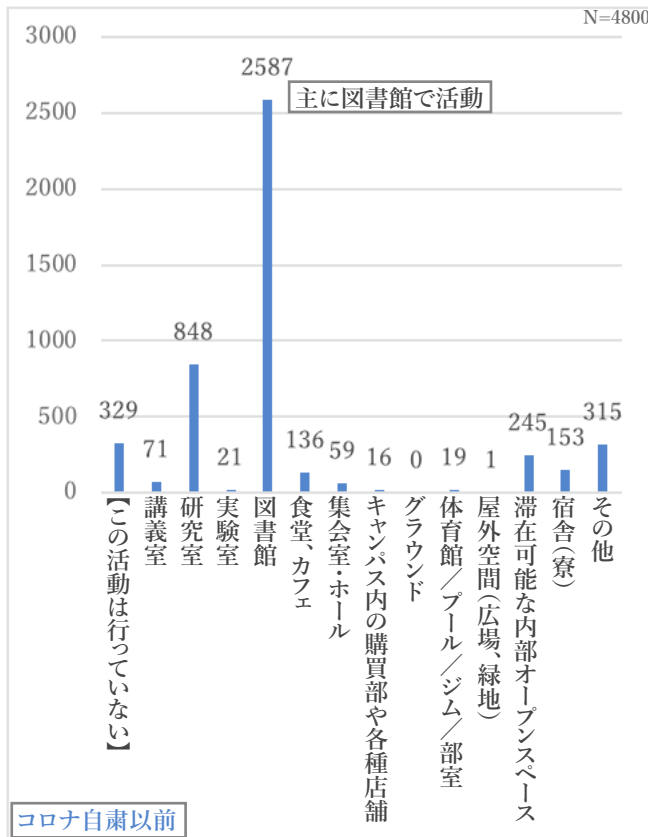
2) 「授業の実験・実習」

→活動が行えていなかった学生多、行なっているも、実家、アパート・下宿でオンライン



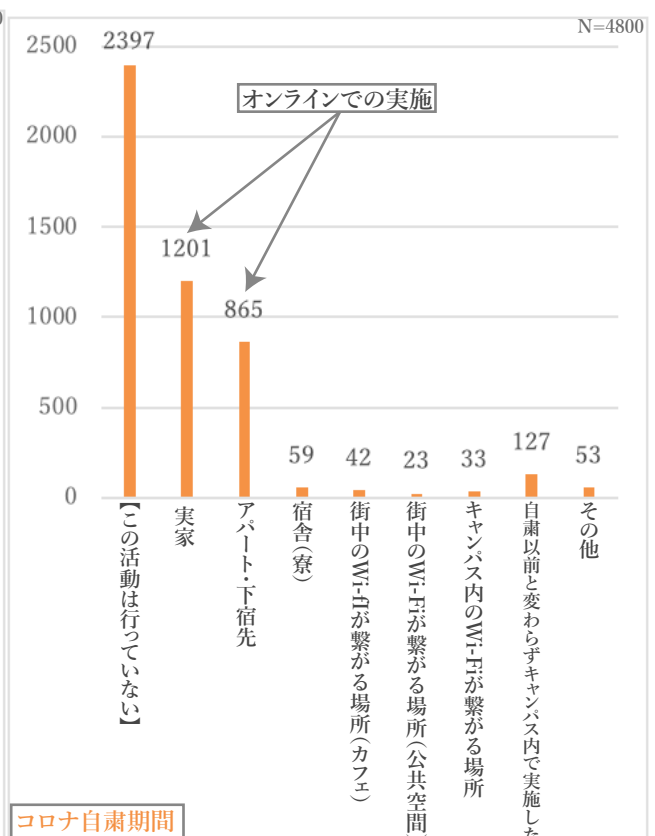
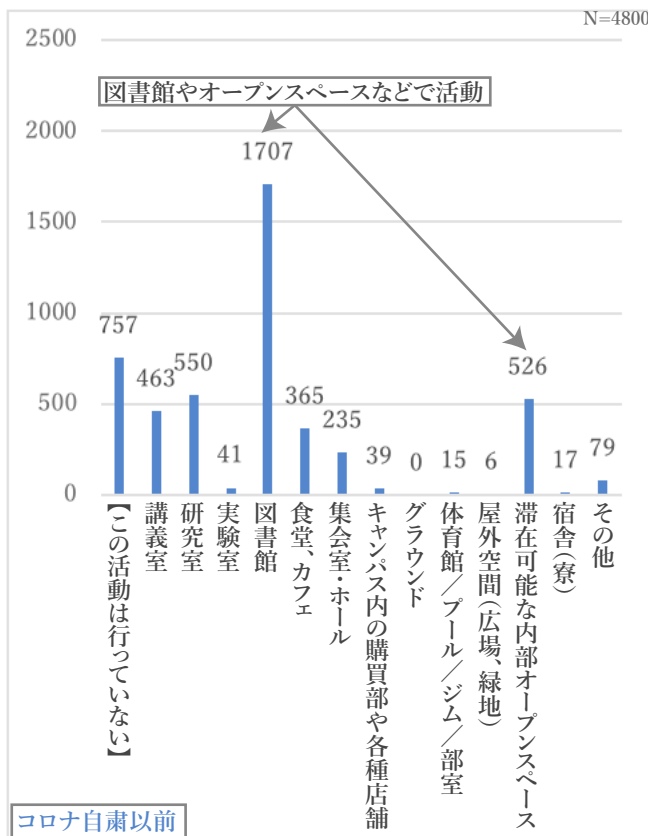
3) 「一人課題：自習する（予習・復習・個人課題・試験勉強・創作）」

→図書館から、実家、アパート・下宿先へ移行



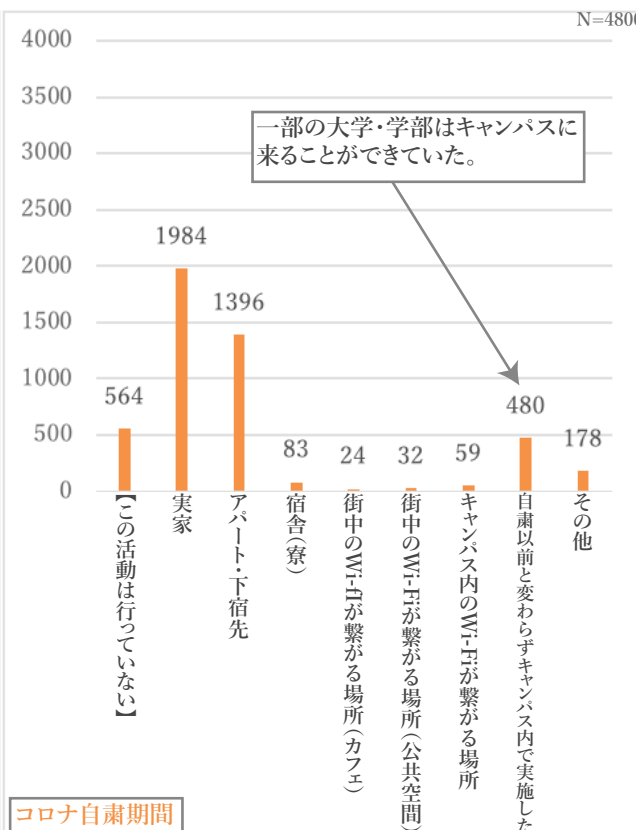
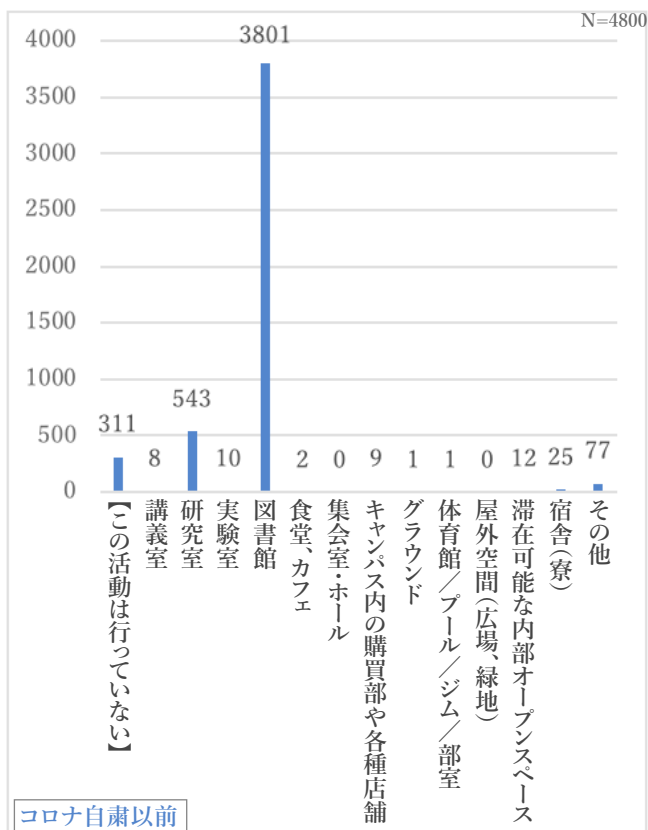
4) 「グループ課題：集まって相談・作業」

→活動が行えていなかった学生多（グループワーク機会は大幅減）



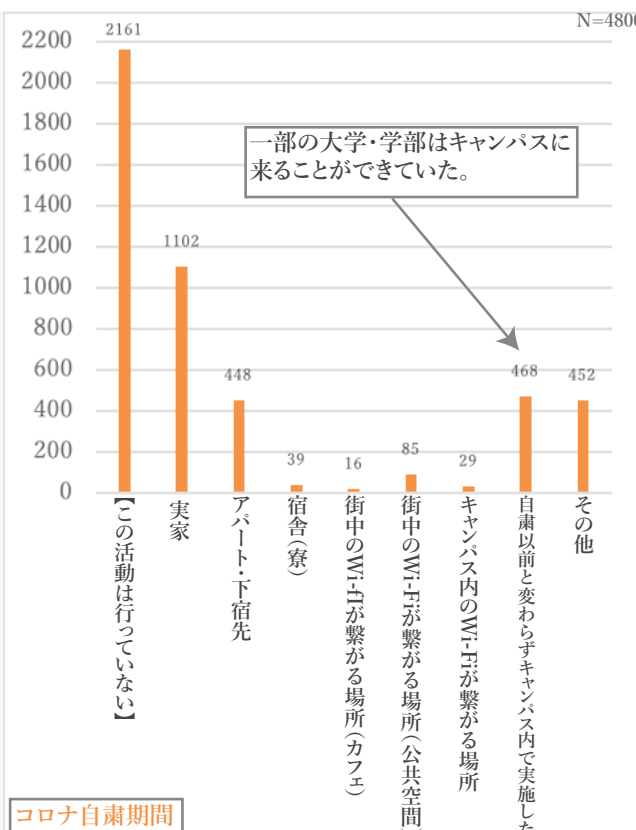
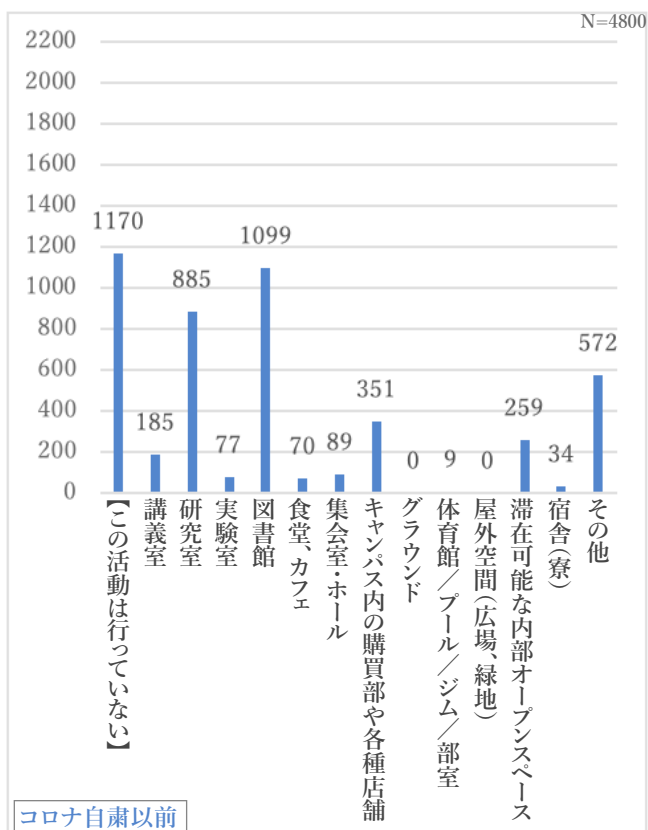
5) 「授業や研究の資料や本を探す、見る、調べる」

→図書館閉鎖により多くが実家、アパート・下宿でオンライン（図書館機能の重要性）



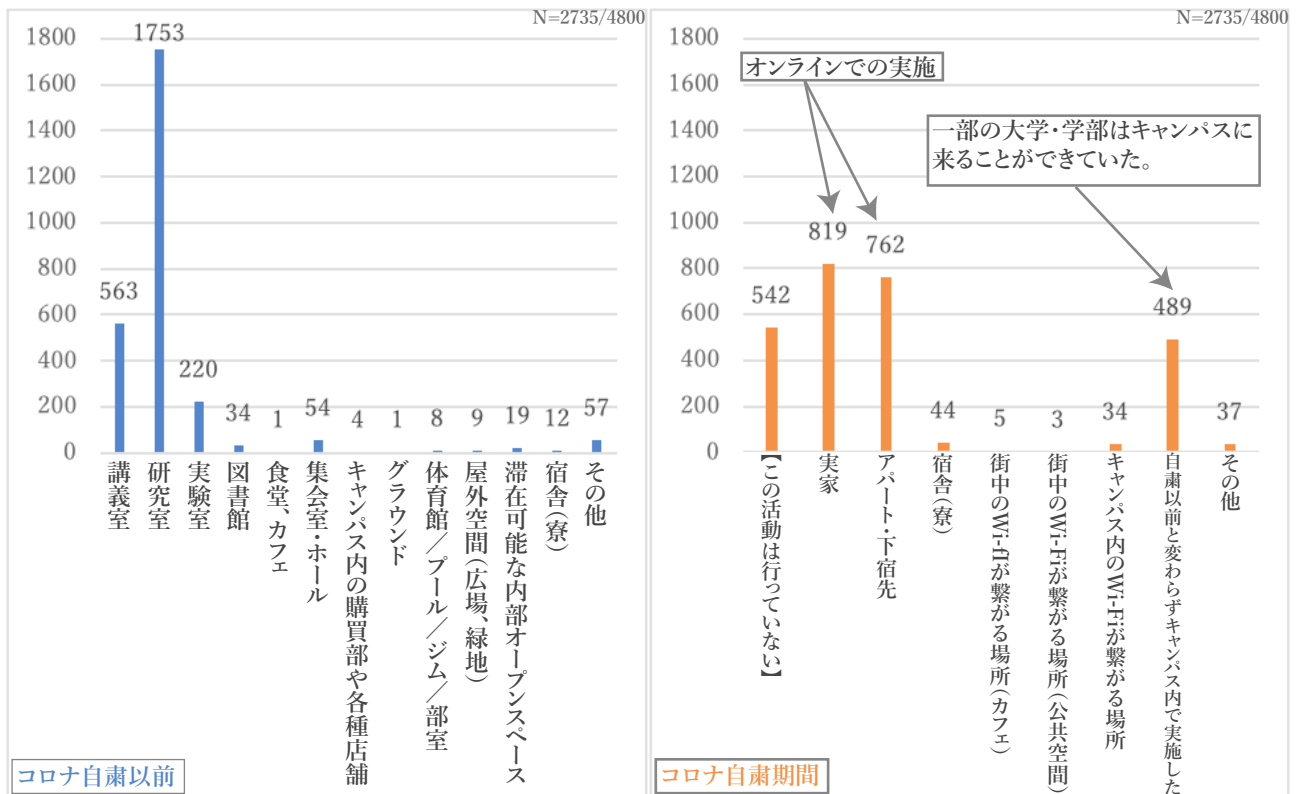
6) 「大型印刷機や機器等の利用」

→活動が行えていなかった学生多（キャンパスで利用できる各種機器の重要性）



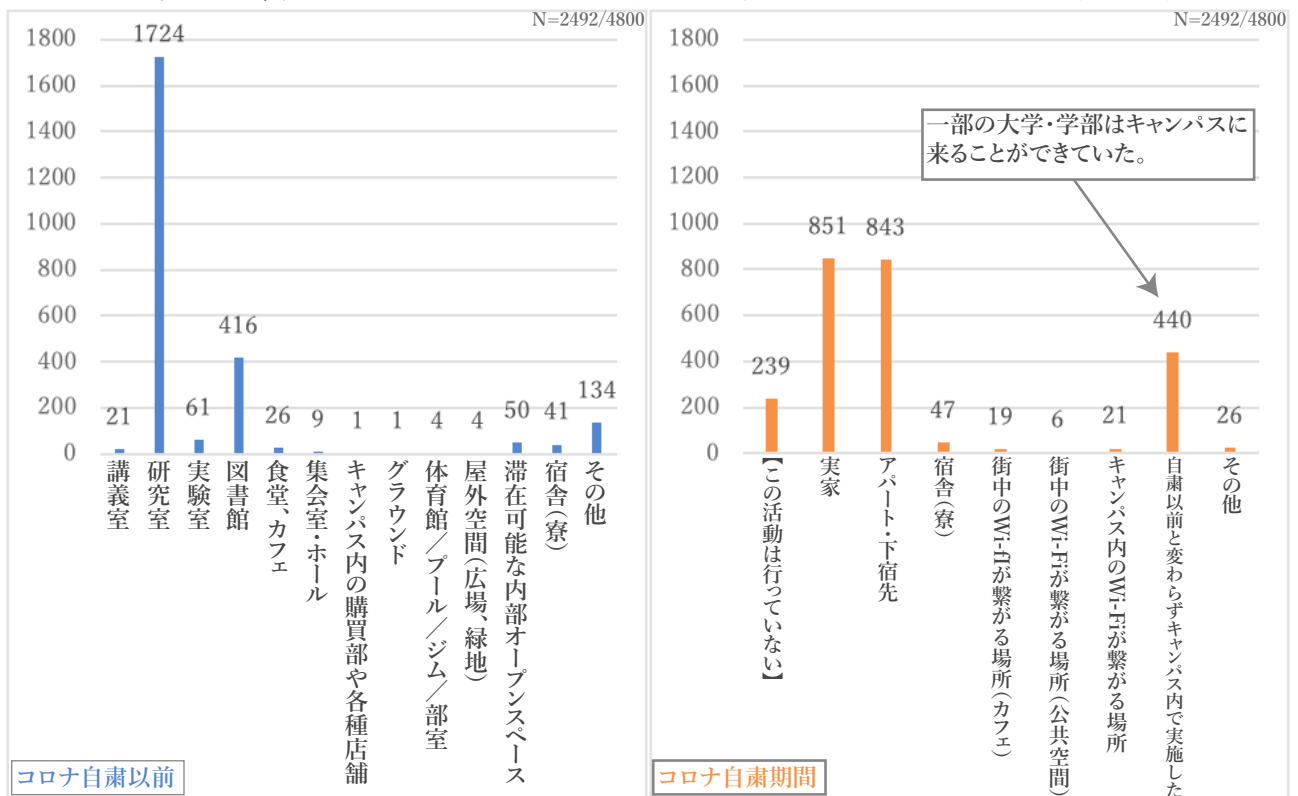
7) 「研究室活動（集団：実験・実習・ゼミ）」

→多くが実家、アパート・下宿でオンライン（コロナ自粛前にこの活動を行っていた学生対象）



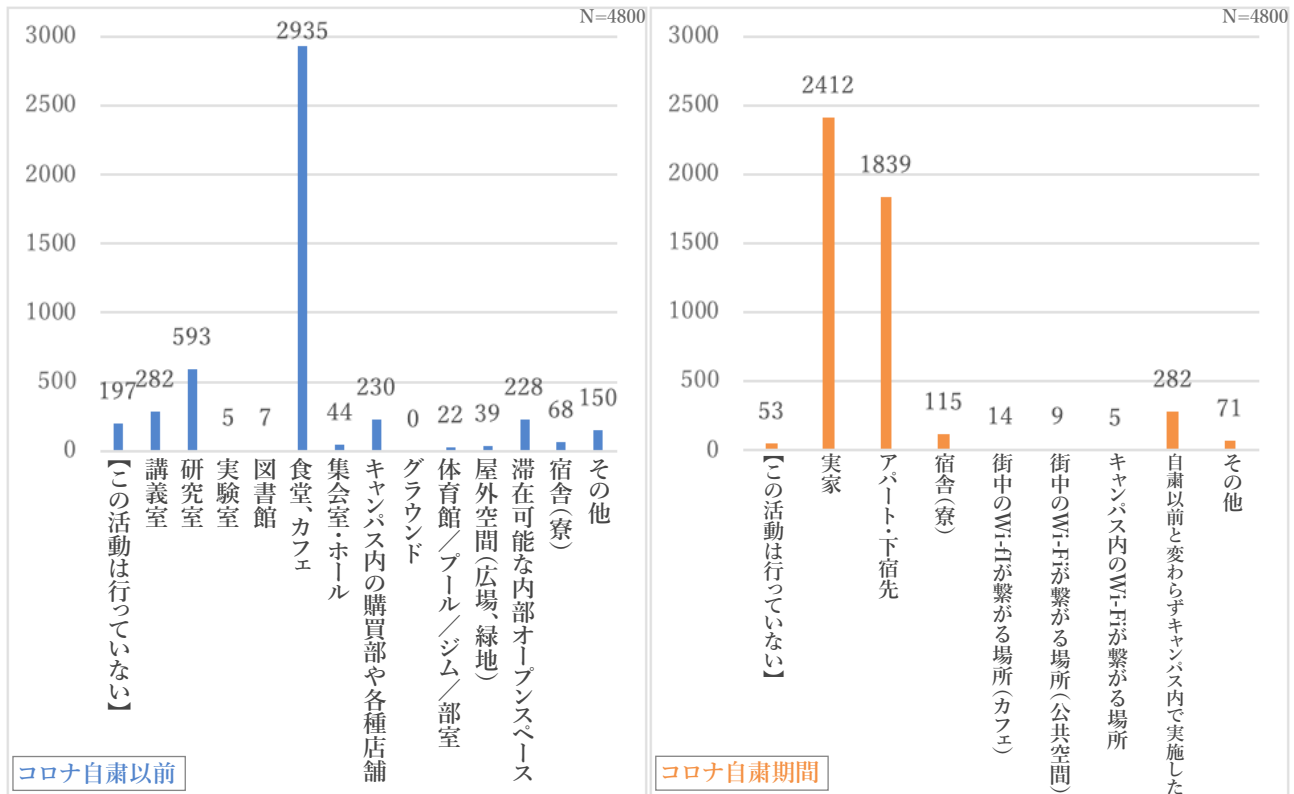
8) 「研究室活動（個人での学習）」

→多くが実家、アパート・下宿でオンライン（コロナ自粛前にこの活動を行っていた学生対象）



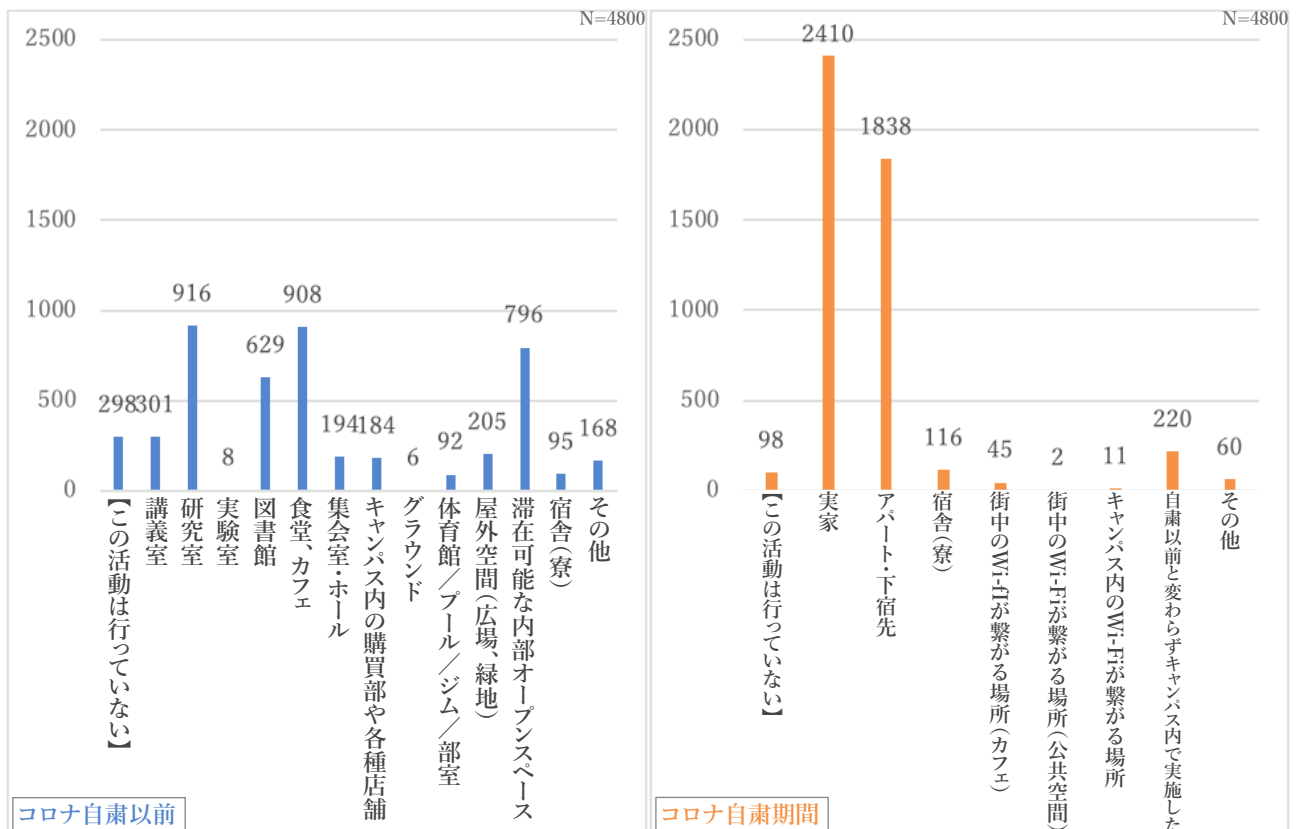
9) 「食事する」

→大学でおこなえなくなっていた（学食等での交流機会喪失）



10) 「休憩する」

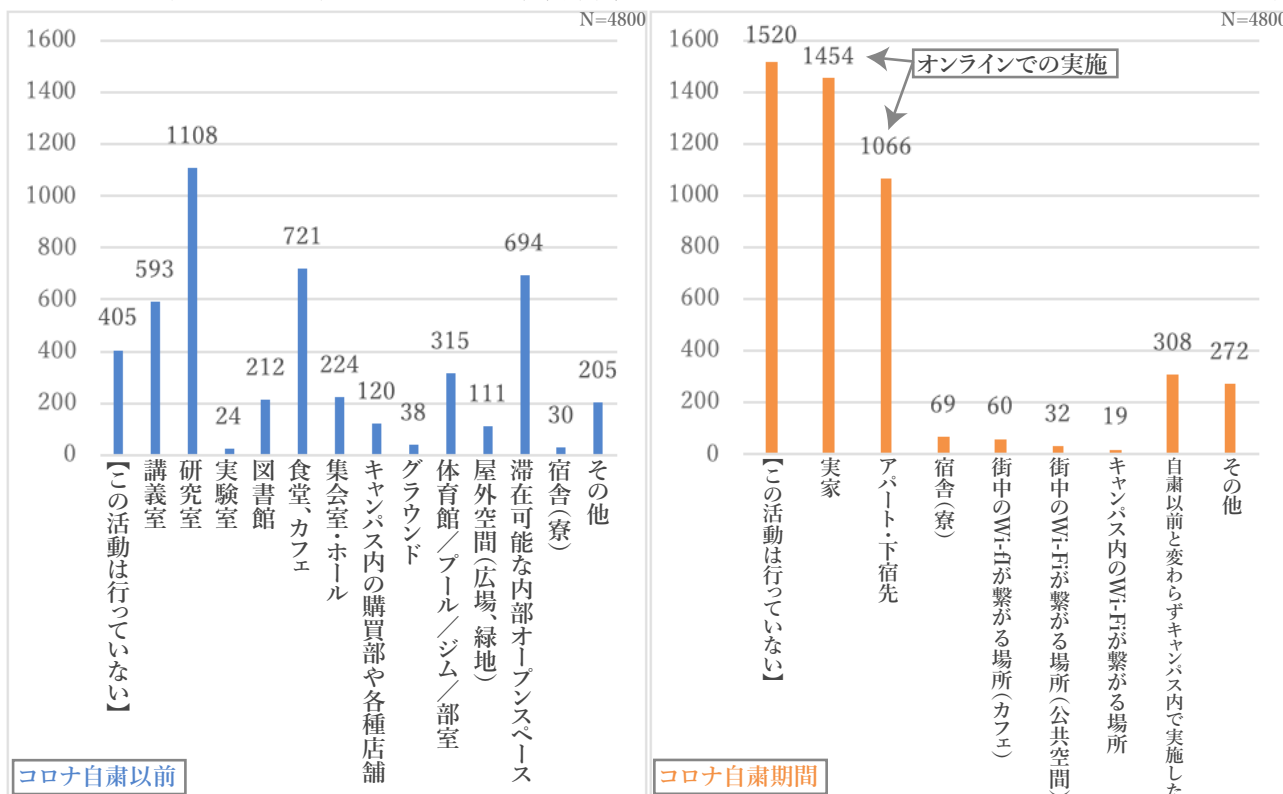
→大学でおこなえなくなっていた（研究室、図書館、食堂・カフェ、オープンスペースでの交流機会喪失）



11) 「コミュニケーション、友人／先輩・後輩との交流」

→キャンパスの様々な場所で行なっていた交流活動の機会喪失

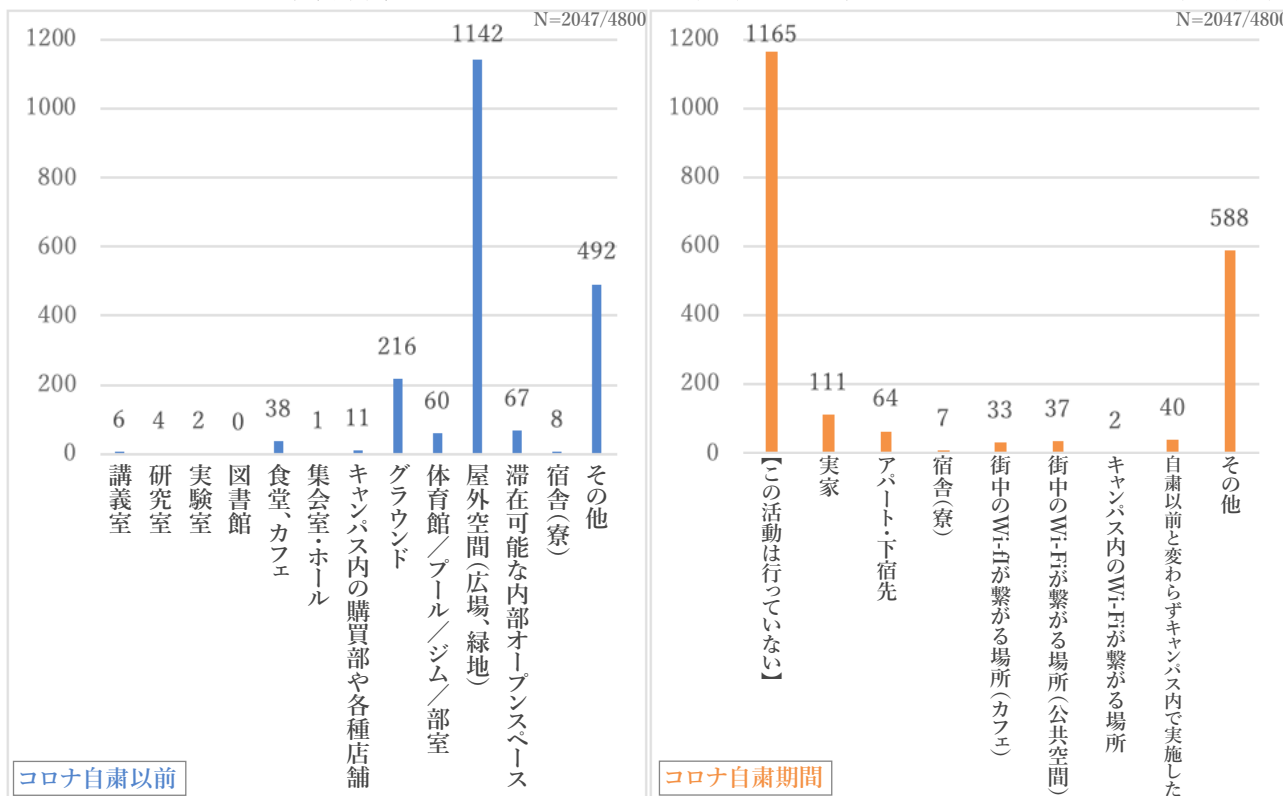
(オンライン授業を聴くだけの自粛期間中、1520人がコミュニケーション・交流を行っていないと回答)



12) 「屋外で過ごす、くつろぐ」

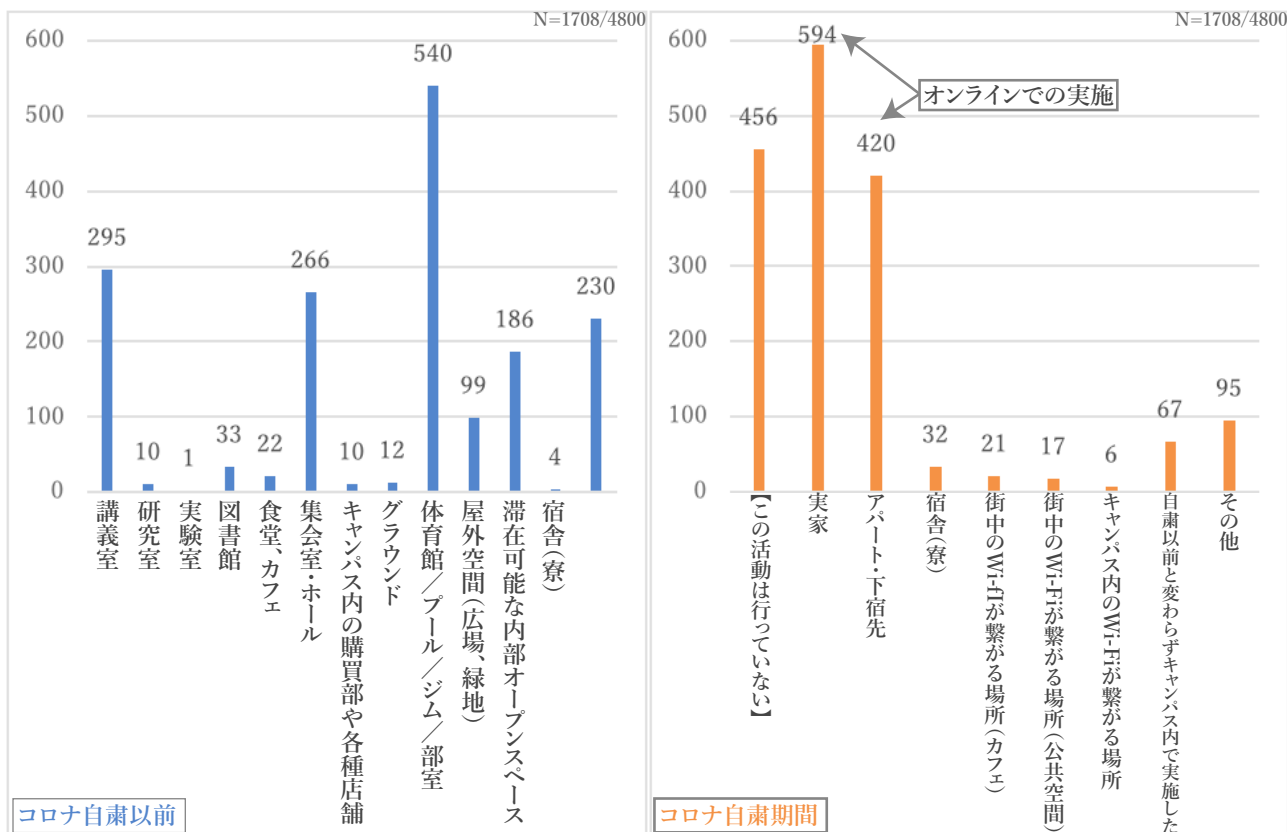
→屋外空間(広場、緑地)で過ごしていた1142人はキャンパス閉鎖により機会喪失

1165人が自粛期間中、屋外で過ごしていないと回答(コロナ自粛前にこの活動を行っていた学生対象)



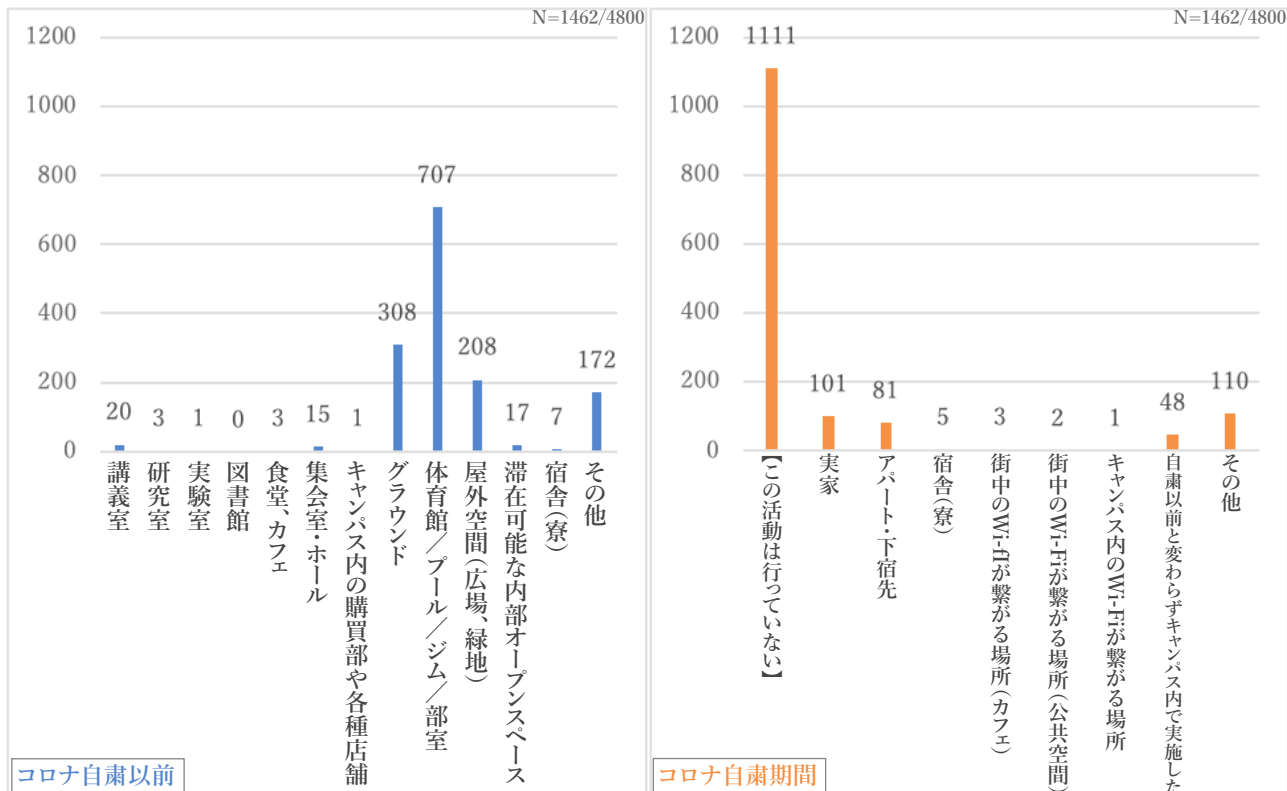
13) 「部活・サークル活動（文化系部活）」

→文科系部活は、活動が行えていなかった学生多、ほか、実家、アパート・下宿でオンライン（グラフは、コロナ自粛前にこの活動を行っていた学生対象）



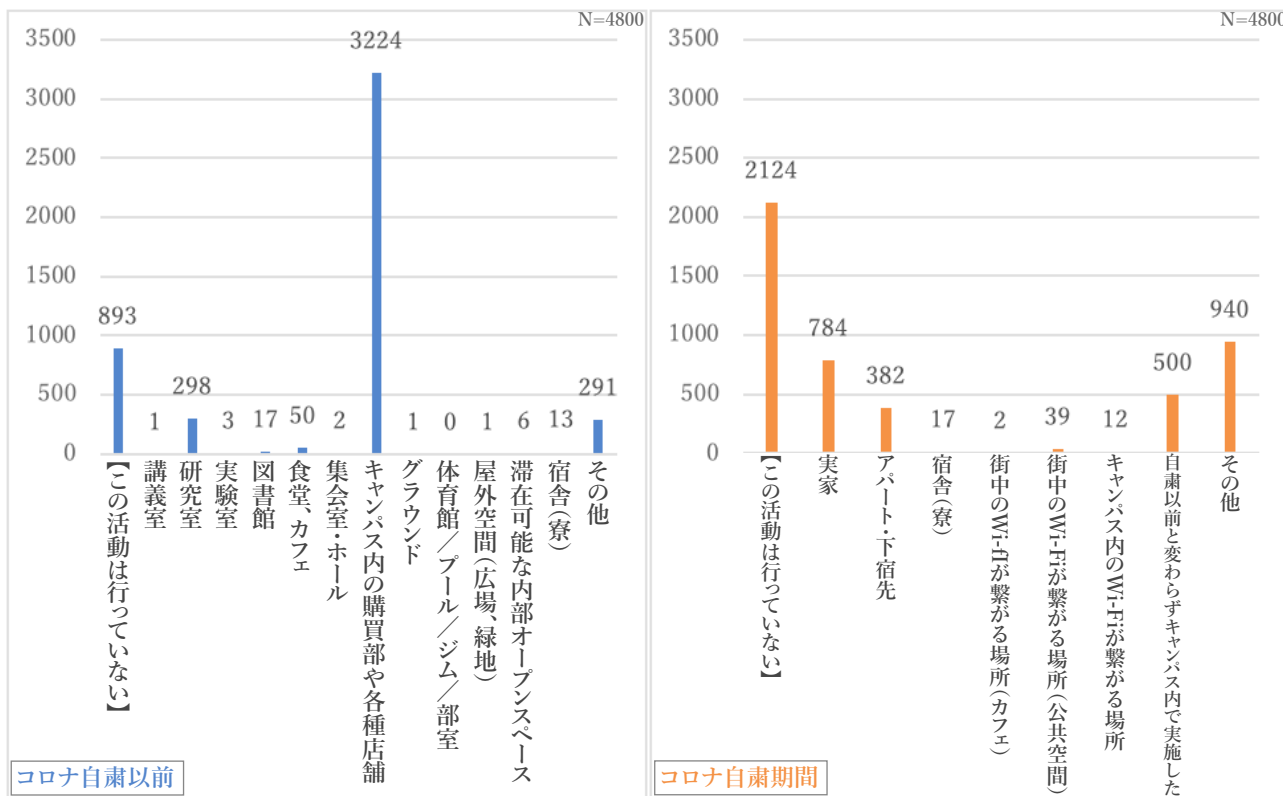
14) 「部活・サークル活動（体育系部活）」

→体育系部活は、活動がキャンパスの運動施設閉鎖により、ほぼ行えていなかった（グラフは、コロナ自粛前にこの活動を行っていた学生対象）



15) 「講義や研究で必要な物品の購入」

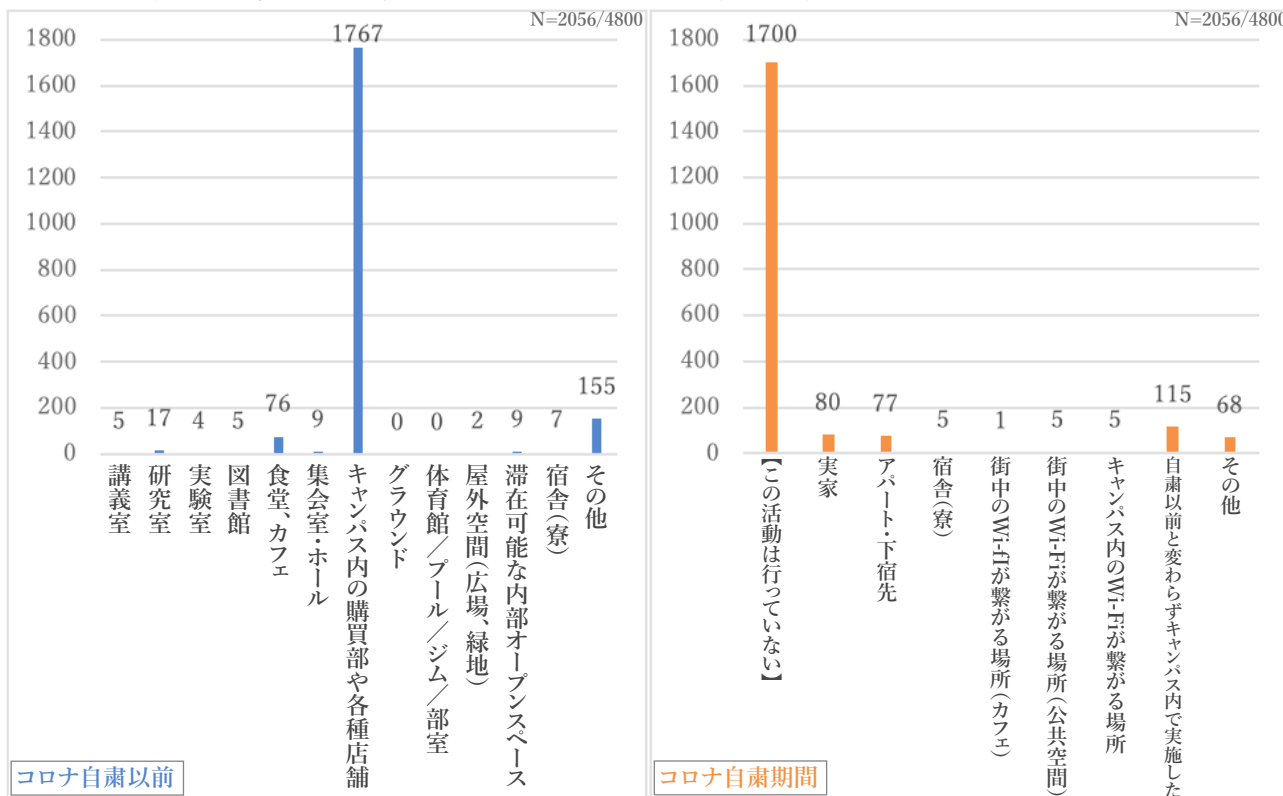
→活動が行えていなかった学生多、ほか、実家、アパート・下宿でオンライン



16) 「大学の福利厚生サービスの利用：(アパート、アルバイト紹介、運転免許、旅行予約、など)」

→ほぼ行えていなかった

(グラフは、コロナ自粛前にこの活動を行っていた学生対象)

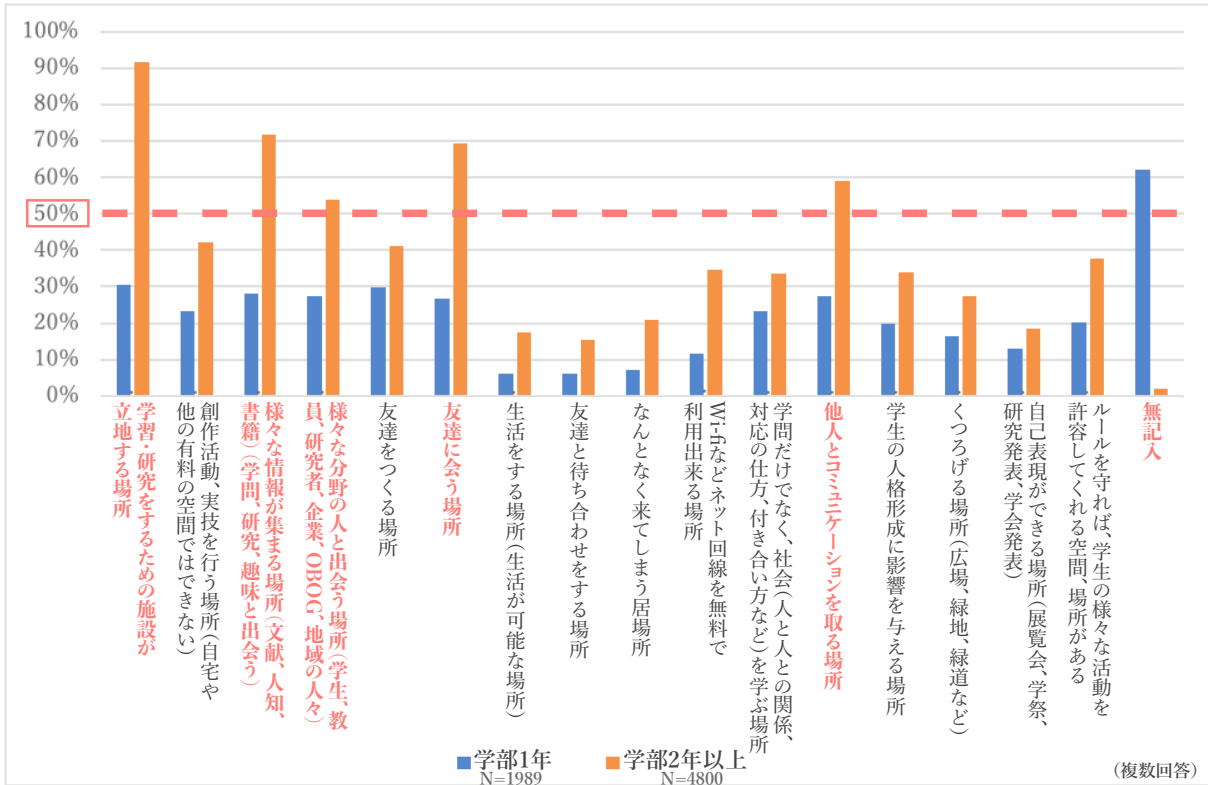


■ キャンパスという空間の意義 (学部1年/2年以上)

1年生 : 通学できていない (未経験の) キャンパスに期待すること

2年生以上 : キャンパスはどのような場所か?

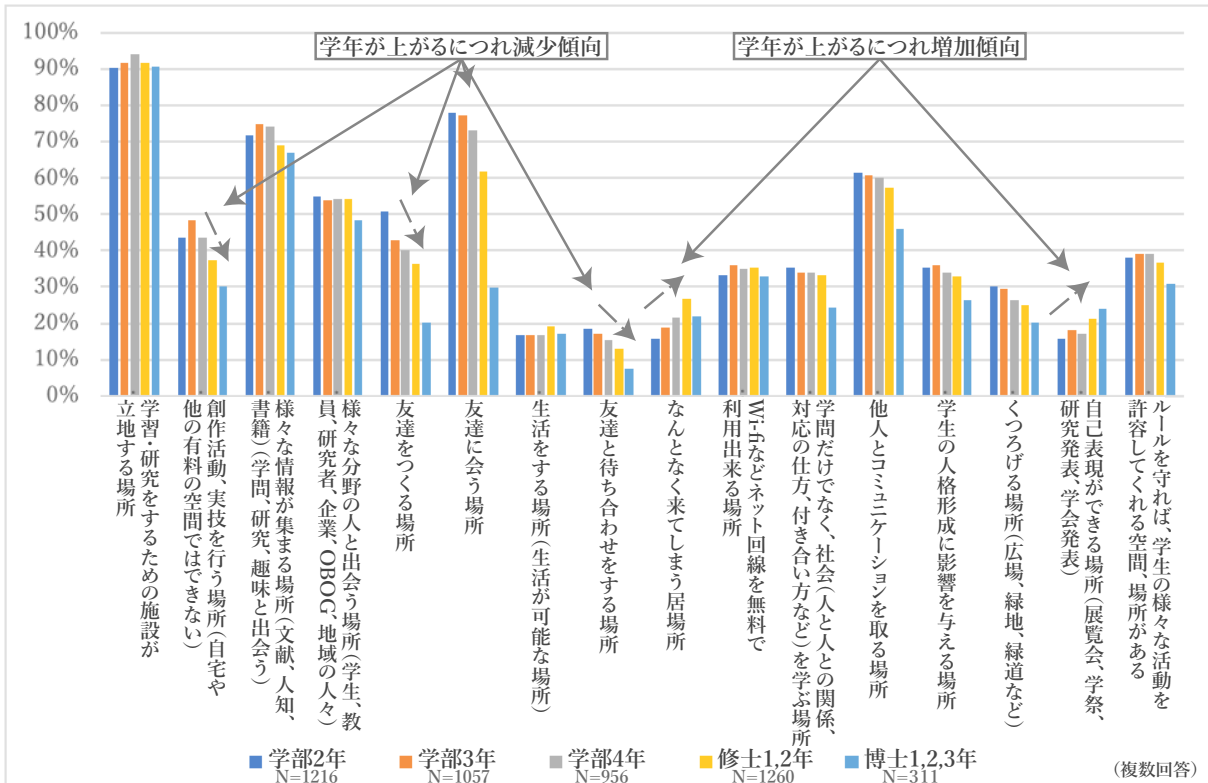
→ 「学習・研究」「情報が集まる」「様々な分野の人と出会う」「友達に会う」「コミュニケーション」が50%超



■ キャンパスという空間の意義 (学部2年以上、学年別)

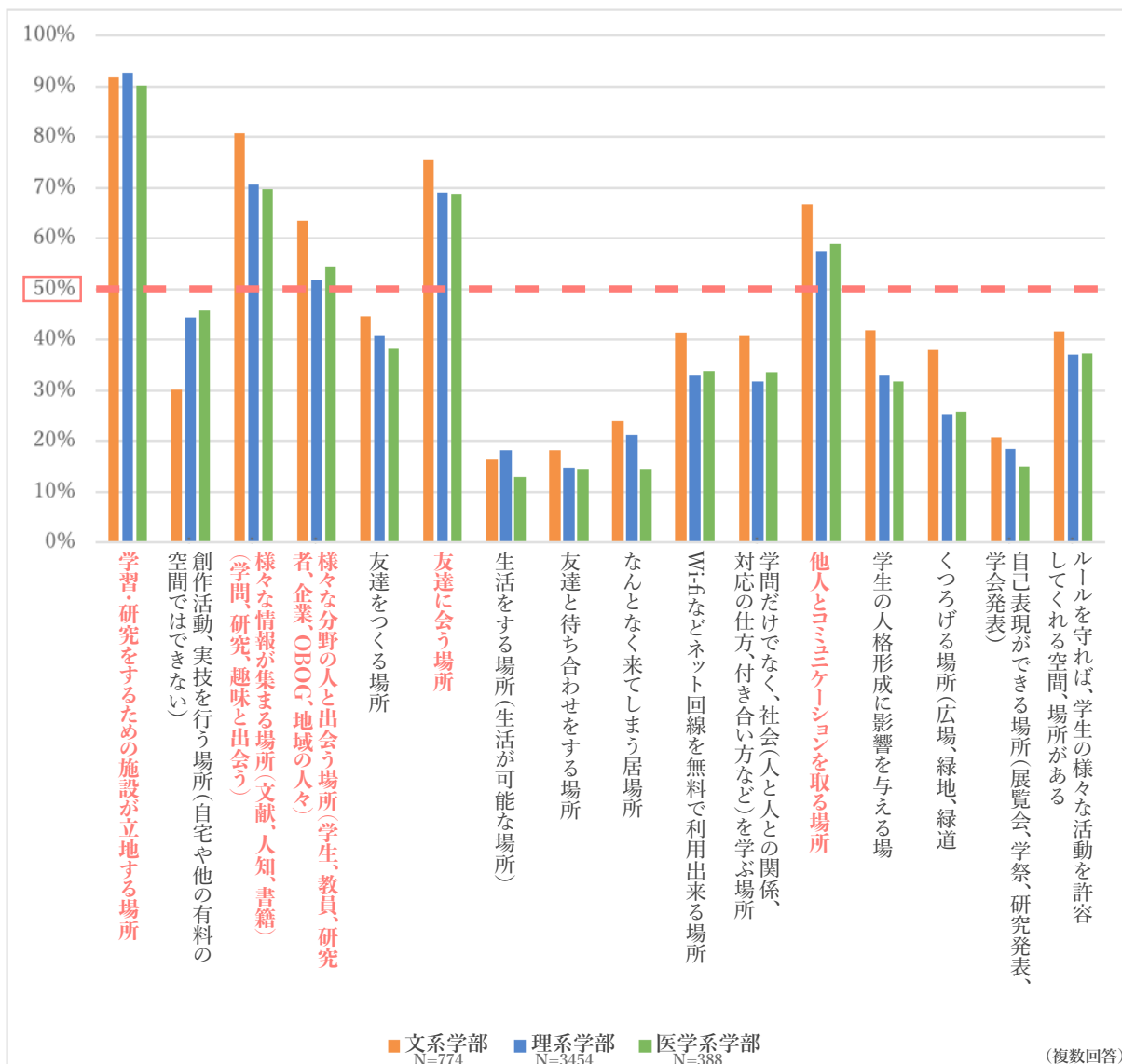
→ 「なんとなく来てしまう居場所」「自己表現の場所」は学年が上がるにつれて増

「友達をつくる」「友達と待ち合わせする」は学年が上がるにつれて減



■ キャンパスという空間の意義（学部2年以上、学部別）

→ 「創作活動」の場所としては理系・医系が高
 「情報が集まる」「様々な分野の人と出会う」「友達に会う」「コミュニケーション」は文系が高
 （本調査では私立文系学生のサンプルが少ないため、今後、要・検討）



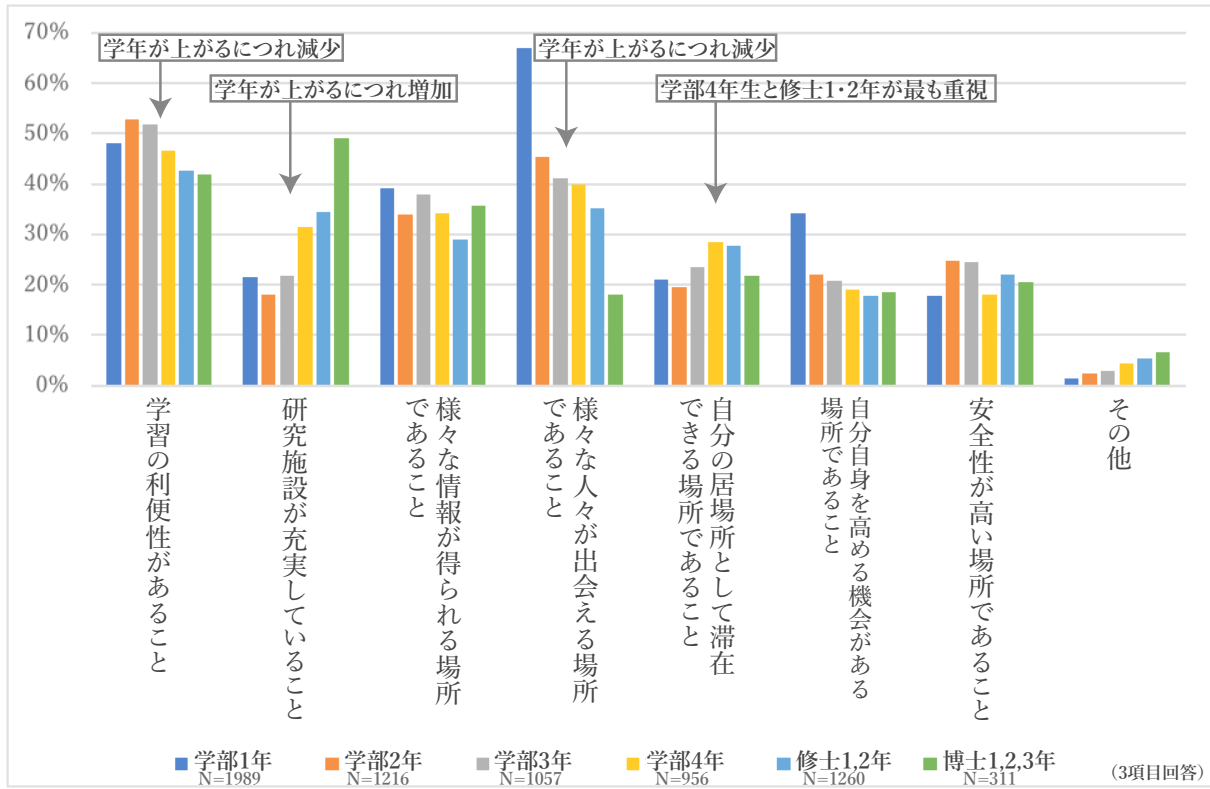
■ キャンパス空間に求めること（学年別）

→ 学年が上がるにつれて、「研究施設・設備の充実」「自分の居場所」は重要度・増

学年があがるにつれて、「様々な出会い」は減少

学部1年に対しては、キャンパスが「様々な出会い」「自身を高める機会」を提供できることが重要

「情報が得られる」ほどの学年も30~40% → デジタル世代であっても、キャンパスで情報を得ることを重要視



Q：これからのキャンパスについて思うこと（自由回答、一部抜粋）

<コロナ自粛期間中に発生した問題...キャンパスを学生に開放せよ>

- 「**文系/B2**」自粛期間中、他人と全く合わないことで気分が沈むことが多くありました。難しい状況にあるのは重々承知ですが、大学に行かせてください。一生に一度の大学生活を私たちから奪わないでください。
- 「**文系/B4**」単位を全て取り切っているため、4年次は興味のある授業を聴講したいと思っていたが、オンライン授業に伴って大学の講義及び施設のオープンなところが失われてしまったように思える。
- 「**文系/M2**」研究室での雑談がないといい発想が浮かばないので困る
- 「**文系/M2**」人が集まるが故に情報も集まるといふ大学本来の構図は、オンライン授業中心の現状では回復できない。感染対策を徹底したうえで、早期の全面キャンパス開放を望む。
- 「**理系/B1**」コロナで利用制限をするなら民間人をキャンパスに入れないようにしてほしい。学生が制限を受けてるのにも関わらず民間人が集会しているのは理解出来ない。
- 「**理系/B3**」特に必須の実験など、大学でしかできないことは十分な感染症対策を講じた上ですべきである。
- 「**理系/M1**」自宅にはノートPCしかなく、学習も食卓でやっているの、大変不便。
- 「**理系/M1**」オンライン授業が続くと、自分の中の世界で完結してしまい、大学で学ぶべきことが学べていないように感じる。
- 「**理系/M1**」研究室での感染症対策が全くされていない感じがするので、怖い。
- 「**理系/M2**」現状で大学への不満は、自身の予定に合わせた自由な出入りができないことであるため、今後オンライン化を進めるとしても、やはり学習や研究をするうえで自宅以外に滞在できる空間は必要と感じています。
- 「**理系/D2**」キャンパスの近くに下宿している理由もなくなった。
- 「**医系/B3**」キャンパスがどうこうというより、家で授業を受けざるを得ないのだから、そのサポートを厚くすべきだと思う。授業資料を印刷するインク代や紙代はばかにならないし、いくら国立だからといっても学生全員に補助金を出すべきだと思う。
- 「**芸術系/B1**」キャンパスに行かずオンライン授業ばかりだと、他人と議論したり考えを共有する場が無いので、考えが浅くなってしまふ。
- 「**その他/M1**」オンラインと通学のいいところ取りをしてほしい。通学が全く無しというのは寂しすぎる

<オンライン授業に好意的...もはやキャンパスは必要ない??>

- 「**文系/B2**」オンライン授業になった事で通学にかかる時間(片道1時間程)がなくなり、他のやりたいことや勉強の時間に充てられているので通学していた頃とは違う利点があります。
- 「**文系/B2**」従来通りの対面式はもちろんであるが、オンラインでの受講という選択肢も新たに取り入れるべき。学生に選択の余地を委ねても良いのではないかと。
- 「**理系/B1**」実験など実際に自らが行う必要のあるものを除いて、通常の授業に関しては、感染症対策としてではなくとも、オンライン授業の方が、自分の時間を持って充実しているように感じたので、今後も続けると嬉しい。
- 「**理系/B2**」オンライン授業にも自分のペースでできるなどのメリットがあるので、適宜取り入れるべきだと思う。
- 「**理系/B2**」オンラインでは質問しにくい部分や学習に不安な部分があったのは事実だが、オンラインで可能な授業はメディアを活用していくべきだと思う。
- 「**理系/B3**」このまま全ての授業をオンラインで続けていくのであれば、キャンパスの必要性については疑問を抱いてしまふ。
- 「**理系/B3**」正直、座学の授業はオンラインで動画配信の方が効率が良い。
- 「**理系/B3**」研究等で機材が必要などときには大学に行っているが、オンラインでできる授業では大学に出向く必要はないように感じた。特に、自分は本キャンパスではないところへ普段通っているため、オンラインになることで移動時間、交通費なしで本キャンパスの授業を受講できることをメリットに感じた。
- 「**理系/B3**」オンライン授業は対面より理解が深まった授業もあった。
- 「**理系/B4**」オンラインキャンパスでVRなどを活用して先生や同じコミュニティの人とコミュニケーションとれる様になれば良いな、と思っています。

- 「理系/B4」授業内容に関して教わる事はオンラインで可能だと感じています。
- 「理系/B3」キャンパスに行かなくても講義は受けられるということがわかったので、座学はオンラインも導入していけばいいと思う
- 「理系/M2」大人数が集まる講義はオンラインで、それ以外は対面と授業ごとに棲み分けをした方がいい。それに合わせて、大人数での講義を同じ曜日に固めるなどの時間割の工夫も必要かも。
- 「理系/D3」リモートが日常になるほどに、「キャンパス」は不要になると思われる。「大学」そのものの存在価値および形態も変わってくると思う。「大学がなくても、研究活動は可能だ」という流れがますます加速するのだと感じている。
- 「医系/M1」社会人にとっては、完全オンライン化は非常に有益でした。
- 「その他 /B2」家からの通いづらさを考慮すると、どこからでも授業にアクセスできることは有り難く、キャンパスへの通学頻度が減少する事に関して好意的に思う。

<コロナ自粛期間中の切実な意見（施設・設備、図書館のオンライン化等）>

- 「文系/M2」研究施設を自由に使えないため、学費を下げて欲しい。
- 「文系/B4」自分としては大学の価値を授業には期待せず、専門情報に触れることができる環境、大量の情報がある図書館、学習環境といった機能、設備に見出していた。そのためオンラインという環境では大学の価値は無に等しくなった。
- 「文系/M2」学内で手に入れられる情報に学外からアクセスできるよう、システムを整備すべきである。
- 「文系/D3」ZOOM などを使った研究会、学会、講座、会議等に学生がアクセス出来るスペースをキャンパス内に用意してほしい。
- 「理系/B1」早く対面授業をして設備を利用させてほしい。
- 「理系/B2」学費を一律で減らさないのであれば通常通り使用させるべき。
- 「理系/B2」大学内でも Wi-Fi 等を利用して遠隔講義が受けられるように整備してほしい。
- 「理系/B2」図書館の利用だけでも制限を解除してほしい。
- 「理系/B2」図書館のオンライン化希望。
- 「理系/B3」大判印刷機や図書館など自宅では代替の利かない場所は自由に利用できるようにしてほしい。
- 「理系/B3」学びのスタイルの多様化を考え、講義を行うための設備だけでなく、図書館のような公共設備や、学習スペースや社交スペースなどを充実させてほしい。
- 「理系/M1」Wi-Fi の完備等によるネットワークへのアクセスの簡便さや通信速度や安定性の確保をしてほしい。
- 「理系/M2」キャンパスが利用できないのであれば研究の進捗に影響するのでアクセス制限を設けず資料公開等を行って欲しい。
- 「理系/D2」自宅でもできる研究のため、わざわざキャンパスに頻繁に通う必要性がなく、施設整備費を払う理由がないと感じる。
- 「医系/M1」オンライン授業に移行した分、大学設備を利用しないので授業料減額してほしい。
- 「その他/B2」図書館の資料を学外からも容易に利用し易ければ助かる
- 「その他/B4」図書館が使える環境と資格や企業、些細なイベント情報などキャンパスに行けば気軽に手に入る情報がオンライン授業では全く入らなくなったので、情報が手に入りやすい環境があると嬉しい。

<コロナ禍で再確認できたキャンパスの良さ>

- 「文系/B1」緑が多くて散歩するたびに大学への愛着心が湧きます。
- 「文系/B2」対面授業が以前より少なくなる場合、講義室以外でのキャンパス内の人の数が少なくなり、自分の居場所があるという感覚が増えた。
- 「文系/B2」学問の場の提供という意味において、大学は非常に優れた場所であるのだから、講義＝対面で行うものという常識が失われても尚、大学の価値が低下するものではないはず。
- 「理系/B1」キャンパスは複数の学部があり、専攻の異なる学生が混在する学問の中心地であるべき。直接、様々な専攻の人と対面し、議論を交わすことは刺激になるだろうし、それを自由に行う学生の権利が保障されているのはキャンパスしかないと思う。

- 「理系/B2」コロナ禍によってキャンパスが学生・教員のコミュニケーションの場としての重要性が改めて認識されたと思う。
- 「理系/B3」この期間を経て喋ることがどれだけ大切なことか認識した。交流できる、一緒に勉強できるスペースを増やすべきだと思う。
- 「理系/B4」大学のキャンパスは勉学や研究活動だけでなく、様々なバックグラウンドを持った人々が集まり、対面でコミュニケーションを取ることができる貴重な場所でもありと考えているので、これからも完全になくすということはしないで欲しいと思います。
- 「その他/B2」やはりキャンパスに行って友達や同級生と大学生活を送るということがとても重要であり、精神的に必要であると感じた。

<キャンパスにおけるコミュニケーションの重要性>

- 「文系/B1」友人や先生と交流できる場であってほしい。
- 「文系/B1」他者との隔離が重要視される状況ではあるが、他者との交流の場として従来通りのキャンパスが形成されるべきだと強く感じる。
- 「理系/B1」いろいろな人と交流する場所を第一に考えています。
- 「理系/B3」完全にリモートになると、友人とのコミュニケーションがなくなってしまって寂しい。
- 「理系/B4」人と人とのコミュニケーションで生まれる情報やその場でしか話さない雑学が聞けない為、知識の幅に限りがあるのではないかと考えています。
- 「理系/M1」私にとってキャンパスは交流場所でした。これからもそうであってほしいです。
- 「理系/M2」以前のように、同級生、先輩後輩をはじめ様々な人と出会い、交流できる場であってほしい。
- 「医系/B1」再び、友人を作ったり、交流したりできる場になればいいと思う。
- 「医系/B4」オンラインでは友人からの刺激を受けられないので、成長の機会が減っていると感じる
- 「医系/B3」気軽にひとと会える場所であってほしい
- 「医系/M2」学生、教員含め人がコミュニケーションをとったり様々な活動をする場所、お互いを高め合い、人格を磨く場所であってほしい。食事をしながら友達同士で話すことも禁じられる学校にいく目的もなくなってきた。
- 「その他/D2」自粛期間中も教員や研究室の構成員と気軽に議論できる環境を整えるべきだと思う。

<with コロナのキャンパスのあり方、これからのキャンパス空間について>

- 「文系/B3」コロナ以前は昼の時間になると学食やライフセンターに長蛇の列ができていたが、そういうことはしばらくの間なくなるのだろうと思う。一人一人がキャンパスの利用方法、あるいは存在意義について問い直されている気がする。
- 「文系/B4」それぞれの建物の外観に統一感がなく、見た目がちぐはぐに感じてしまう。移動も大変不便。これを機にキャンパスの統一的な整備を図っていくことが望まれる。
- 「文系/M2」研究室配属前の学生は、大学で腰を据えて過ごせる場所が少ない。自学や休憩に誰でも利用できる場所を増やしても良いのではないだろうか。
- 「文系/M2」オンラインと対面どちらも行うことになるなら、オンラインに対応した場所をキャンパス内に作る必要があると思う。
- 「理系/B1」今のままでも十分満足しているが建物が新しいと勉学のモチベーションが上がってよいと思う。
- 「理系/B1」キャンパスでしかできない体験・キャンパスだからこそ得られるものがしっかり受けられるようになってほしい。
- 「理系/B2」自分の居場所がほしい。
- 「理系/B2」自宅ではできないことをやる場所になれば良いと思う。
- 「理系/B2」屋外の広場など、感染症にまつわる心配の少ない場所を増やすこと、またそうした広場は気兼ねなく入ることのできる空間であってほしい。
- 「理系/B2」オンライン講義は、講義室ではなく、通信環境のある学べる空間があればいいなと思う。
- 「理系/B2」コミュニケーションが活発に行え、かつ適度に他人との距離を保つことができるという一見矛盾する内容を実現する工夫を編み出し、実行することが急務であり、それを国も積極的に支援することが求められている。

- 「理系/B2」今回は仕方ないかもしれないが、今後はこのようなパンデミックや自然災害等の不足の事態を想定したキャンパスを構築してほしい。
- 「理系/B3」座学などがオンラインで行われている今、大学だからこそのスペース、例えば、図書館、実験室、研究室などはより充実したものに、テラス、オープンスペースのようなみんなとリラックスできるスペースも充実させ、大学だからこその居場所をより濃くしてほしい。
- 「理系/B3」キャンパス内の空いているスペースで実験する場所などを確保して、学生達自身で様々なことに挑戦できる環境づくりをしてもいいのではないかと思います。
- 「理系/B4」大学のオンライン化というのは、大学という場がもたらす出会いの機会そのものを、様々なツールを使用してまるごとオンライン化していくことも含むのではないかという気がしています。
- 「理系/M1」変わらず人と知の交流の場であって欲しい
- 「理系/M1」人が集うことを前提に設計していくべきかと。複数人で集まって話せるスペースみたいなのが多い方がいい。
- 「理系/M1」オンラインの機会が今後増えるならば、それに合わせた学習研究環境にしていく必要がある。
- 「理系/M2」食堂のような空間利用の用途がある程度決まっている空間以外に、屋内で気軽に滞在できるようなスペースがより豊富になるといいなと思います。
- 「理系/M2」「半屋外のような講義室」があってもよいと思う。以前より、せっかく天候がよいのに室内で受講するのはもったいないと感じていた。また、最近必要とされる換気の観点からも好ましいのではないかと。
- 「医系/B3」with コロナの時代としても必要な様々な課題を解決したキャンパスを創り出してほしい。
- 「医系/B3」大学、特に国公立大学は閉鎖空間であってはならず、学外の人も自由に立ち入れる場所である必要がある。大学の公共性を維持した上で、静粛性の維持やセキュリティー面での強化してほしい。
- 「医系/D3」知識や情報を扱うだけならオンラインでもできるが、大学の機能として、人間の教育も含まれるなら、人と人が出会う場所、空間の提供は必須ではないかと思う。

以上